

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立桂中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	京都市立 桂中学校 第一学年（205名） 育成クラス生徒は交流クラスで体験
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合（人権学習）） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	・車いすバスケットボール選手との交流を通して障がいのある人たちと共生する社会について考える。 ・車いす使用体験や体験談を聞くことを通して、誰もが気持ちよく生活するために必要なことについて考える。 ・自分のクラスや学年を振り返り、互いに認め合う集団を築こうとする。
5 取組内容	・車いすデモ ・全員車いす体験 コーンまでの一往復帰りは後ろ向きで ・車いすバスケットボール体験 各クラス女子5名男子5名の代表選手で試合 女子3分男子3分で1試合ずつ ・車いすバスケットボール選手体験談（30分） ・質問 ・教室にて感想記入
6 主な成果	(生徒の感想より)  ・今まで車いすの人が間近に来て真剣に話を聞く機会がなかったけど、今回来て下さって、話を聞くことで、世の中に対する視野が広まったなと思った。山本選手に話をさせていただいたように私たちのように不自由のない生活を送っていると、スロープがないことや、段差がないことも見慣れた光

景で、普通に使うことができて、ちがう目線で世の中を見てみるとバリアって多いんだなと思った。公共の施設のバリアをなくすことは自分達にはむずかしくても、心のバリアをなくすことができると思うから、学年のりのような身近なことでも平等に過ごせるように心を開きたいと思った。



- ・今お店などでは、車いすの人が暮らしやすいようになっているところもたくさんできているけど、道路などではまだ危険なところもあるから、それは人が助け合っていけたらなと思いました。
- ・障がい者のためにできることは身の回りのことをよくする。環境をよくするなどという誰にでもできそうなことをすることが、大切と知って驚きました。また、個人個人が頑張っていることを捨てないことや障がい者を認め、迷惑のかかるような行いをしまいことも大切だと思いました。
- ・バスケットボールの選手から話を聞いて、障がいをもっている人でも、持っていない人でも住みやすい生活にすることを心がけたい。そのためには、障がいがある人はもちろんない人でも助け合って暮らしていくことが重要だと思う。障がいを持っていても何かを目標にして取り組むと誰でも集中すれば何でもできるとわかった。実際、足が動かないという不利なことがあるけれど、バスケなどできることはたくさんあるから、自信を持つということもあ伝えてもらったので、自分達もそれを生かしてあきらめないことを忘れないでいたい。



7実践において工夫した点 (事業の特色)	・全員が車いすの体験をすることで、車いすで動くことのむずかしさをわかることができた。 ・体験のあとで教室にもどり障がいのある人に対して自分たちのできることなどを考えさせた。 ・事後に葉っぱの形の小画用紙に人権学習での決意を書いて、全校であわせて大きな人権の木を作っている。
主な課題等	・今年はオリンピック・パラリンピックをテレビで見た生徒も多く自分達も実際に体験できたことが、貴重な時間となった。 ・質疑応答の時間がとれなかったこと。
9来年度以降の実施予定	・車いすバスケットボールを体験することは、なかなかできないので、1年生の後期人権学習で来年度も実施できればと思う。